

# 南小だより

[minamiurawa-e@saitama-city.ed.jp](mailto:minamiurawa-e@saitama-city.ed.jp)

令和3年4月30日

5月号

さいたま市立南浦和小学校  
電話 048-861-3781



## 感謝する日

校長 小野 圭司

毎朝、1年生や2年生の歩く速さに合わせ、登校してくる南小の子どもたち。大人から見れば少し遅いくらいに感じますが、班長の気遣いがよく表れていて、南小の子どもたちの優しい様子がこの場面だけを見てもよく分かります。「落ち着いているなあ」という私の子どもたちに対する第一印象は1か月を経ても変わりません。

さて、5月18日は本校の開校記念日です。沿革史を探ってみると、明治36(1903)年5月18日に「現在地に校舎を建設し、開校」とありましたので、このことから開校記念日が制定されたのではないかと思います。さらに遡ってみると、明治7(1874)年4月1日に「辻村和光院に辻学校創設」とありましたので、令和4年3月31日に満147歳を迎えることとなります。毎年、開校記念日には給食が特別メニューになるなど開校を祝う日となりますが、私たちが通う南小を開校してくれた皆様や147周年を迎えるまで存続して下さった皆様にも感謝する日ではないかと思います。

また、同じように私たち一人ひとりにも開校記念日ではなく、「誕生日」があります。その日に生まれた自分を祝う誕生日ではありますが、自分を大変な思いをして産んでくれた母親、自分の誕生を喜んでくれた父親や家族に感謝する日でもあるのではないのでしょうか。

子どもたちは嬉しいことがあるとその嬉しさにばかり集中して、その嬉しいことがあった裏側に周りの人たちからの支えがあったことを忘れがちです。例えば、九九の暗唱ができたのならば、自分で努力したことはもちろんですが、お風呂の中で問題を出したり、できた時に喜んだりしてくれた人のことを意識せずに、さも自分だけの力でできた気になってしまいます。そこまで気が付かないのは年相応であると言われればその通りですが、始めは形からでもいいので「嬉しいことがあった日は感謝する日」としたいものです。一人の力だけでできることは少なく、きっと誰かが支えてくれたり力を貸してくれたりしたからこそ何かができて、嬉しい日になっているはず。周りで支えたり力を貸したりしてくれた人たちも、その「ありがとう」の一言でこれまでの苦労がなくなったり軽くなったりする人も多いのではないのでしょうか。このことは、機会をとらえて子どもたちに話をしていこうと思っています。

自分の誕生日には家族等に感謝するとともに、嬉しいことがあった日にも周りで支えてくれた人たちに感謝する南小の子どもたちに成長できるよう、今後も教職員一丸となって日々の教育活動に取り組んでまいります。保護者・地域の皆様には引き続き、ご理解やご協力をよろしくお願いいたします。

